

社会の長期的な共通利益の実現を目指して

公共経済学とは、政府、市場、個々の家庭といった3者の共通利益の実現のために、経済社会システムや公共財の供給の在り方を考える学問です。上田良文先生が、2年の後期に公共経済学1を、3年の前期に公共経済学2を開講されています。授業は講義で、積極的に自らまとめ、ノートをとる姿勢が求められます。従来の経済学では説明できないことを理論的に説明し、新しいアプローチをとります。

まず公共経済学1では、持続可能な経済社会システムを設計・実現するための基礎的理論を学習します。公共経済学2では、それらを踏まえ、現実問題に応用する能力を養います。経済学では、完全な合理性を仮定しており、個人は自分の利益の最大化の為に行動するとみなします。そのため、個人が目先の自分の利益を追求すると、生きている内に地球の資源やエネルギー、環境を使いきろうとします。今の環境問題に置き換えられます。短期的に個体の効用を最大化すると、個人や社会、自然の長期的生存可能性の喪失を引き起こしてしまい、最終的に社会の共通利益は実現しません。最大多数の最大幸福をパレート最適とする功利主義には問題があるのです。「コモンズ」、簡単に言うと所有権が確立していない共通に利用する資源、例えば空気や海、川といった環境資源は、放っておくと個人が自己利益の最大化をはかって、率先して使おうとするために枯渇してしまいます。したがって、それを防ぐために社会が持続可能な制度設計が必要になります。コモンズ問題に対し所有権アプローチを使い、所有権の確立、外部性の内部化、公共財の私的供給方式により解決するための仕組みを考え、社会に貢献していく方法を学びます。社会的起業家として、社会的利益の実現をする為の理論が身についていきます。社会的利益だけでなくコストに注目する点で現実的なアプローチとなっています。ベネフィットーコスト >0 でないと、所有権の確立も公共財の私的供給も実現しません。例えば、制度の確立・執行プロセスにもコストがかかります。人材を探すコスト、事前の話し合いの為の調整コスト、運営コスト、強制コストなどです。制度を立ち上げたり変えたりするには多大なコストがかかるため、誰かがやってくれないかとフリーライドをしようとするインセンティブが働きます。これらも踏まえた上で、こういった制度や事業を確立していけばいいのかを理論的に考えていくのです。公共財を市場で供給できるプログラムも学びます。個人にも社会のためにもなる具体例を教わります。数式やデータを学ぶのではなく、理論を学ぶ授業です。

私はこの授業をとるまで、公共財を私的に供給できる方法や個人と社会の利益を同時に実現できるアプローチの在り方を知りませんでした。国に任せるだけでなく、民間の取り組みや私有化により、市場の中で社会に対し役割を果たせるのだと意識が変わりました。既成の枠組みを越えた物事の見方を得ることができ、解決策が考えにくい問題へのアプローチやアイデアを持てるようになりました。応用できる理論の授業です。環境問題や経済学に興味のある人、アイデアを出せるようになりたい人、ビジョンや理念を持っている人、将来社会に貢献できる起業を考えている人にはぜひとって欲しい授業です。